みなさまの健康と心の支えに

小千谷総合病院 第34号

地域連携だより

新潟厚生連

発行：ＪＡ新潟厚生連　小千谷総合病院　患者サポートセンター
〒947-8701 小千谷市大字平沢新田111番地
TEL. 0258-81-1616(直通)　FAX. 0258-81-1602(直通)

新年のご挨拶

新潟県厚生連小千谷総合病院　病院長
柳　　雅彦

皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当院が開院し８年余が経過しましたが、私たちも地域にねざした病院として皆さまの安心安全な医療の拠点となれるよう日々邁進してまいりました。

なかでも令和６年４月の「介護医療院80床を開設」「医療入院病床を199床に変更」の２点の変革は当院の歴史の中でも大きな転換点でした。地域の医療や介護ニーズの変容、当院スタッフの体制、当院収支の脆弱性などを考慮しての変革でありましたが、いずれの問題点も改善に向かって少しずつ成果が出ています。しかしこの体制変更のなかでご迷惑をおかけしました皆様や変革対応に尽力いただいたスタッフには改めてお詫びいたしますとともに今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

そして昨年秋には６年ぶりとなる病院祭を開催させていただきました。振り返ってみますと令和２年に新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのため病院祭を初めとする各種イベントを中止せざるを得ず、そしてその後の当院や新潟県厚生連全体の経営悪化の対応のため病院祭開催を自粛しておりました。しかし今回JA魚沼様から農林まつりと病院祭の共催のご提案をいただき、また常々ご支援を頂いています小千谷市様からも「地域市民に開かれた病院を」とのご助言により、令和７年10月26日(日)に第４回病院祭を開催させていただきました。当日はあいにく雨がちのお天気の中での開催となりましたが、多くの市民の皆様からご来場いただき盛会とすることができました。ありがとうございます。病院祭は１階２階フロアを用いて９ヶ所でイベントを開催いたしました。お子様からお年寄りまで幅広い世代の方にご覧いただき、当院の活動や医療の実際をお伝えすることができ当院スタッフも新たな気概をいただく機会にできました。また農林まつりには当院駐車場を使っていただき、多くのお店でJA直産の農作物などが飛ぶように売れていました。さらに特設ステージも楽しいイベントが盛りだくさんであり、当院に入院されている患者さんたちも病室窓からこの光景を御覧いただき大変喜んでおられました。

今回はこのように地域市民の方々やご支援いただいています皆様との絆の大切さを再認識していく機会となりました。コロナの影響や当院経営悪化からの回復もまだまだ道半ばでありますが、皆様と共にあることが我々医療者の心を強くし困難に向かっていく大事な意識であろうと痛感いたします。

最後に皆様のご健康とご健勝を祈念しご挨拶とさせていただきます。今年もよろしくお願いたします。

新年のご挨拶

事務長　長谷川　拓史

日頃より先生方には病院へのご協力とご理解をいただき御礼申し上げます。

小千谷総合病院は開院より９年が経過しようとしております。これも地域の皆様方の多大なご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

さて、昨年、小千谷市では「みんなで地域医療を守ろう！」作戦2025として、このまちでずっと健康で暮らしていくために、市民の方に向けたメッセージが送られています。作戦１は「上手に病院にかかろう！」として、かかりつけ医を持つことの重要性を述べております。日頃の自分の健康状態をよく理解したうえで診察を受けることができるとあります。当院は病院ではありますが、入院機能と同時にかかりつけ機能としての外来機能もございます。地域のクリニックの皆様と、かかりつけ医としての機能を担ってまいります。作戦２は「感謝の気持ちを届けよう！」として、市民の方から医療関係者に向けたメッセージを募集しております。作戦３は「医療に関するイベントに参加しよう！」として、健康づくりのきっかけになるよう、イベントへの参加を促しております。当院では昨年10月26日に６年振りとなる病院祭を開催させていただきました。当日は天候に恵まれませんでしたが、同時開催の「おぢや農林まつり」と併せて多くの方よりご来場いただきました。小千谷総合病院に触れていただく機会になったのではと思います。これらの作戦の期待に応えるべく、小千谷地域での医療を展開してまいります。

医療・保健から介護福祉までをトータルでサポートする病院として、これまでどおり、一定の地域での救急受入に加え、直接入院の他、転院の受入についても積極的に対応してまいります。また、スムーズな在宅、介護等との連携を強化してまいります。引き続き、皆様との連携を深め、地域の皆様より信頼される病院づくりに尽力して参りますので、本年も小千谷総合病院を何卒よろしくお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます

看護部長　坂内　広恵

新春にあたり、地域の先生方、住民の皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。そして駆ける馬のように活力ある一年となりますよう願っております。

昨年４月に着任して以降、地域との結びつきの強さを実感することが多くありました。特に10月26日の病院祭はJA魚沼様のおぢや農林まつりと共同開催でき、当日は雨にもかかわらず、多くの地域住民の方にお越しいただきました。深く感謝申し上げます。風船を手に笑顔で病院内を歩くお子さんや、ACP（人生会議）のコーナーで真剣に話し合うご家族など、地域の皆様に病院を知っていただく良い機会となりました。

小千谷総合病院は地域の病院として、病気の治療だけではなく健康な生活を作る場所でありたいと考えています。令和６年に「医療と介護の切れ目のない連携」を目指し開設された介護医療院もおかげさまで軌道に乗ってまいりました。コンパクトながら多機能な病床機能を備え、地域の医療ニーズに対応してまいりたいと思います。

看護部は「温かな心のこもった看護の実践」を理念としております。外来や入院だけでなく、健診センターや訪問看護ステーションなど、あらゆる健康のステージに関わり、住民の皆様の思いに寄り添っていきたいと考えます。

午年はエネルギーと行動力が高まり、勢いよく前へ進む年だそうです。健康な生活は病院だけでは完結しません。地域の先生方や自治体の皆様とも連携を深め、住民の皆さまの健康を支える存在であり続けたいと思います。地域の皆さまに安心の医療をお届けできるよう、看護部一同前進してまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ちびっ子たちを
風船でお迎えしました

よし太くんも来てくれました！

編集後記

地域連携支援部長　家　里　　裕

新年おめでとうございます。

新病院創立９年目の正月を迎えています。

昨今、医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、開院当初より理念と掲げてきた地域医療に密着した医療を更に充実させたいと考えています。

小千谷地区は高齢者の多い地域でもあり、病気によりADLが低下し在宅生活や施設での生活が困難になる例も多くあります。地域に密着した病院の役割として、診療所からの受診相談、急性期病院からの地域住民の転院相談など、様々な場面において地域の医療機関や高齢者施設との連携を密にし、治療や療養生活、退院支援等がスムーズに行われることに努め、病院としての役割をきちんと果たしたいと思います。

また、地域住民が安心して在宅医療を受けられるよう、地域連携支援部の患者サポートセンターを窓口とし、診療所の後方支援体制として、患者急変時対応、そして医師不在時における看取り対応などを行ってまいります。

これからも地域の診療所や高齢者施設との綿密な連携が必要と考えております。

今年もよろしくお願いいたします。

地域連携支援部一同

患者サポートセンター

地域連携支援部長 家里

訪問看護ステーションひまわり
居宅介護支援事業所